

# 拡大版

## 市川泰憲の 業界散歩

### 写真とともに...



## マウントアダプター考察

最近、カメラを取り巻く状況が大きく変化してきています。もちろんスマホによるコンパクトカメラの衰退は今さらではありませんが、私が注目しているのは一眼レフとミラーレスの関係で、交換レンズとの間に新しい動きがでてきたことです。こう書くとうすうす

「2008年」のライ

「カMとRマウントを交換する純正アダプター(II写真1)がありましたが、2013年11月に登場したフルサイズのソニーα7シリーズにより、過去に発売されたさまざまなカメラの交換レンズがそのまま使えるということ

で、爆発的な広がりを見せたのです。

ところがこの種のマウントアダプターは、絞りとピント合わせを手動で行うのが前提でしたが、ソニーが2012年にミノルタα7000以降のAマウント交換レンズを機械的なAF・絞りを駆動する電気信号に変える「マウントアダプターLA-EA2」(II写真2)を発売して新たな可能性を示したのです。同じ年2012年にはキャノンはミラーレス機・EOS Mの発売に合わせて、キャノンEFレンズにEOS M用のマウントアダプター(II写真3)を発売し



写真1・ライカS/Mアダプターとパナソニックのルミックス用「ライカMマウントアダプター DMW-MA2M」

ました。こちらは完全に電子マウント同士での交換です。違和感なく装着できました。

2016年になると、シグマからMCI11というマウントアダプターが発売されました。これは、シグマ製のキャノンEF用とシグマSAマウントレンズをMCI11を介してソニーα7シリーズのボディに絞り・AFともにフル運動で使用できるのです。こちらも電子マウント同士での交換です。違和感なく装着できました。

## マウント互換の新しい時代に電子マウントアダプター事情

シグマ製のキャノンEFマウント、シグマSAマウントのレンズがソニーEマウントのボディに使えるアダプター(II写真4)です。シグマの完全電子式のすべての対象マウントのものを使えるというわけではなく、オート、スポーツ、コンテントラフリーなどのシグマ製ハイグレードレンズが対応するのです。

このあたりの確認は、レンズをアダプターに装着してボディの電源をONにすると、MCI11の基部に埋められた小さな緑色LEDランプが点灯すれば使用可能というセルフ



写真4・「シグママウントコンバーターMC-11」を介してソニーα7 R IIにシグマ35mmF1.4Artを取り付け



写真5・フジフィルムX-Pro 2に「フリンガーFR-FX1」を介してキャノンEF-S24mmF2.8STMを取り付け。外観的にも違和感はない



写真6・AF-Sニッコール24-70mmF2.8E ED VRを「コムライトCM-EZF-E1-PRO」を介してソニーα7 R IIに取り付け

■シグママウントコンバーター「MCI11」

シグマ製のキャノンEFマウント、シグマSAマウントのレンズがソニーEマウントのボディに使えるアダプター(II写真4)です。シグマの完全電子式のすべての対象マウントのものを使えるというわけではなく、オート、スポーツ、コンテントラフリーなどのシグマ製ハイグレードレンズが対応するのです。

■「Fringier」

(フリンガー) FR-FX1(焦点工房扱い) 完全電子マウントの

チェック機能があり、ソニーのα7シリーズ新型機種の顔検出や瞳AFにも対応します。

■「Fringier」

(フリンガー) FR-FX1(焦点工房扱い) 完全電子マウントの

ですが、マウントアダプターのFR-FX1を介して装着(II写真5)してみても違和感のないコンパクトな大きさに収まっているのがいい感じですね。

3本のレンズでさまざまな場面を撮影して

みると、ピントが合っていない箇所がありますが、ポートレイトでは顔検出と瞳検出AFも働きました。このFR-FX1はアダプター基部にはリングがあって回転させることにより絞り値とAEモードを

完全に電子マウント同士の変換が原則ですが、唯一異なるのがニッコンのAFレンズをソニーα7シリーズポ

ズをMCI11を介してソニーα7シリーズのボディに絞り・AFともにフル運動で使用できるのです。こちらも電子マウント同士での交換です。違和感なく装着できました。

電子マウント同士での交換です。違和感なく装着できました。

電子マウント同士での交換です。違和感なく装着できました。

電子マウント同士での交換です。違和感なく装着できました。

電子マウント同士での交換です。違和感なく装着できました。

電子マウント同士での交換です。違和感なく装着できました。

電子マウント同士での交換です。違和感なく装着できました。



写真2・ソニーNEX-7に「マウントアダプターLA-EA2」を介し1985年のミノルタα用35~105mmズームを取り付けると当時より素早く合焦



写真3・キャノンEOSMと「キャノンEFレンズ→EOS M用マウントアダプター」

たために大きく状況が変わりました。まずユーザーはキャノン純正でもソニーα7ボディでMCI11がうまく動作することを知ってしまったので

このほか、絞りのリングのないボディ側で操作を行う「フリンガーFR-FX10」も用意されています。

このほか、絞りのリングのないボディ側で操作を行う「フリンガーFR-FX10」も用意されています。



# 今、電子マウントアダプターが熱い

## 今後の展開にも注目

「デジで使うことができているのが「コムライト CM-E-NF-EEI-PR0」(II写真6)です。二コン用のマニュアルフォーカスのアダプターなら各社から出ていますが、AF・AE対応というのが本機の特徴です。

今回、動作確認した二コンマウントのAFレンズは、AFISニッコール24-120mm F3.5-4.5G(絞りのみレバI作動)、AFISニッコール24-70mm F2.8E ED VR(完全電子マウント)、シグマ

Marimoライン50mm F1.4(絞りのみレバI作動)の3本です。最初は初期のAFカメラ用の交換レンズを用意して、コムライトCM-E-NF-EEI-PR0マウントアダプターを介してソニーα7Rに装着しましたが、ピントはうんと

すんともいわないので、すぐにAFは電子接点だけになったAFIS以降のレンズだけが対応することがわかりました。

つまりレンズ駆動要素をボディ内でなく、レンズ内駆動とし、絞り

羽根の駆動は、機械的なボディ側のレバI式とレンズ内の電磁制御式なら対応するのです。このあたりは、すでにタムロン、シグマ、トキナーも絞り羽根を電磁制御式とした二コンマウントの完全電子マウント方式の交換レンズを一部に用意しています。これは純正、交換レンズメーカー製とも完全電子マウントの交換レンズが徐々に増えていくのは間違いないと見られます。

TECHART(テックアート)LM-EA7(焦点工

房扱い)距離計連動のライカ用レンズを、このソニーα7RシリーズのII型以降に装着するとAF撮影が可能となるアダプター(II写真7)です。つまり80年もの古いライカレンズでもAFで使えることになりました。

すでに古いライカレンズを持つユーザー間で静かな人気なのがAFはボディ側の信号と電源を使ってライカレンズをアダプター内の小型モーターで全体繰り出し方式でピントを前後させ合わせる

のですが、顔認識AFも動きます。どのようなレンズが取り付くのかということですが、最大500gまでとメーカーは非常に、大口径のノックアウトスリーブ50mm F0.95で使っている強者もいますが、極端に重く大きくないレンズが安全です。

マウントアダプターはMマウントです。重量を別にすれば、二コン、キヤノンFD、コンタックス、M42などライカM用アダプターがあるものなら何でもAFを可能にする



写真7・ソニーα7R IIに「テックアートLM-EA7」を付けると古いライカレンズがAFで使える

るのようです。距離計連動のライカ用レンズを、このソニーα7RシリーズのII型以降に装着するとAF撮影が可能となるアダプター(II写真7)です。つまり80年もの古いライカレンズでもAFで使えることになりました。

すでに古いライカレンズを持つユーザー間で静かな人気なのがAFはボディ側の信号と電源を使ってライカレンズをアダプター内の小型モーターで全体繰り出し方式でピントを前後させ合わせる

るのようです。距離計連動のライカ用レンズを、このソニーα7RシリーズのII型以降に装着するとAF撮影が可能となるアダプター(II写真7)です。つまり80年もの古いライカレンズでもAFで使えることになりました。

すでに古いライカレンズを持つユーザー間で静かな人気なのがAFはボディ側の信号と電源を使ってライカレンズをアダプター内の小型モーターで全体繰り出し方式でピントを前後させ合わせる

私が異機種間用の電子マウントアダプターを最初に使ったのは2015年のことで、知人のプリコラーシュノクトという会社が扱う「コンタックス645/EFアダプター」(II写真8)というものでした。キヤノンEOS 1DsMark IIで使っているとプラナー80mm F2.0のAF動作は緩慢な印象はありましたが、駆動駆動予測にも対応してまずまずでした。それから3年経ちましたが、この時期に使った機種は動きも俊敏で顔認識や瞳認識にも対応するのです。

この中で最も発想がユニークで傑作は、ライカMレンズをソニーα7ボディでAFで使える「テックアートLM-EA7」です。これは使ってみるとわかるのですが、距離計でなく TTL・AFなのできわめて正確なピント合わせができるのです。そして、これらほとんどのアダプターが中国のメーカーによるといっても驚きであり、現実なのです。

もちろん市場にあるさまざまな中国製のマウントアダプターには精度的に疑問視されるのがあるのも現実です



写真8・コンタックス645用のプラナー80mm F2.0を「コンタックス645/EFアダプター」を介してキヤノンEOS-1DsMark II取り付け



写真9・フジフィルムGFX50Sでシフトアオリが出来るマウントアダプター(KIPON)

が、少なくともここで紹介した機種は十分な加工精度を持っていました。かつてソニーがNEXやα7を投入したときにマウント規格は公表され、その影響は不明ですが、わずかながら60種類以上のソニー用アダプターがでていたのです。

ところが最近では、フジフィルムGFXが発売されると、3日後には中国のKIPONからマウントアダプターの試作品が発表され

種類のもアダプター(II写真9)の発売が予告されました。さらに1ヵ月後には中国の中一光学からマニュアルフォーカスの65mm F1.4レンズが発売されるなど、かなり中国企業の開発ヒッチが紹介(II写真11)され

上がっているのです。また、2017年9月に開かれた「FUJIKINA」の時には、KIPONが協力企業として表紙(II写真10)を飾っていました。さらにこの時期、六本木ミッドタウンの富士フィルムショールームには、KIPONと焦点工房の扱うマウントアダプター各種が展示

この規格を公表して、あるポジションを得たのに対し、富士フィルムでは一部の有力中国企業を積極的に引き込んでいこうという、今までの日本のカメラメーカーにはなかった新しい動きをしているのが注目されます。

これらの電子マウントアダプターは、一眼レフとミラーレス機種の間には存在するもので

システムは今後ますます盛んになるはずで、日本のカメラメーカーとサードパーティーの間でどのような展開がなされるのか、大いに注目していきたいと思

うのです。そして、実は今回のレポートには、レンズに関する記事とうとしましたが、次回以降への送りとなりました。

(筆者・日本カメラ博物館)



写真11・六本木ミッドタウンの富士フィルムショールームには、GFXマウントとXマウント用のKIPON、焦点工房のマウントアダプターが展示されている



写真10・「FUJIKINA 2017」でのWeb画面の告知

# 拡大版

## 市川泰憲の 業界散歩

### 写真とともに...